

2019年度教員免許更新講習(秋冬)

※開催時間は全日程共通9:30～17:30
 ※すべて2019年7月11日現在の予定

開催日	領域	講習名称	概要	担当講師	定員
10/27 (日)	【選択】	表現教育について考えるA ～素材あそびから、総合的な表現へ	幼稚園教育要領の改訂により、領域「表現」の内容の取扱いにおいて「音、形、色などに気付くようにすること」「様々な素材や表現の仕方に親しんだり」という文章が加えられた。素材あそびを通して、日々の生活の中で子どもたちが発見していることを追体験し、素材による表現の可能性について考える。また、楽譜を使わないアンサンブルを経験し、音や動き、ことばによる応答的な関係性の深まりと表現について考える。	池谷 潤子(本学准教授)	40人
		表現教育について考えるB ～感じるところから始める表現	幼稚園教育要領領域「表現」に、「様々な素材や表現の仕方に親しんだり」という文章が加えられたことを踏まえ、造形と身体の2つの視点から素材と表現について考える。まずは自身の身体で素材を丁寧に感じることを体験しながら、子どもの表現活動の意義を考えると同時に、互いに関わり合いながら学ぶワークショップ形式の実践を体験する。また、表現活動における保育者の役割について、そのあり方を再考する。	深谷 ベルタ(本学教授) 田中 葵(本学准教授)	40人
11/10 (日)	【選択】	幼児期の遊びについて考える	遊びは幼児の成長発達に大切なものであるが、地域で子ども同士が遊ぶ場や時間が年々減少している。幼稚園・保育園等での生活の中でしか、群れて遊ぶ機会がないのではないだろうか。幼稚園教育要領を踏まえ、幼児期の遊びの大切さや遊びの内容について、年齢や発達に応じた遊びを確認するとともに、その指導法について考える。	泉澤 文子(本学准教授)	40人
		保育における「幼児理解」と「援助」を考える	「環境を通して行う教育」という考え方は、幼稚園教育の基本である。そして、子どもにとっての保育者は、環境の中でも大きな意味を持ち、直接的に影響を与える存在である。その保育者は、自身の幼児理解に基づき、日々、目の前の子どもたちを保育する。従って、保育者としての経験を積み、また、さまざまな経験を経た今、改めて「幼児理解」とはなにかを再考し、幼児理解と具体的な援助の関係、そのあり方について理解を深める。	金 瑛珠(東京未来大学准教授)	40人
11/17 (日)	【選択】	「保育環境」の問い直し	「環境を通して行う教育」では、幼児が関わっていく対象である「保育環境」のあり方がとても重要である。そして、その「保育環境」は保育者が意図的に考えていく必要のある対象である。幼児にとって望ましい「保育環境」とはどのようなものだろうか。保育環境として、人の要素、モノの要素等いろいろあるが、幼児の主体性を大切にしていこうという場合、どのような環境が望ましいのだろうか。改めて問い直しを行う。	由田 新(本学教授)	40人
		家庭援助の基本	教育、福祉機関は、ますます家族援助を求められる状況にある。通り一遍の助言は個人の価値基準によるため、問題を深刻化させる時がある。虐待、親子関係悪化などの人と人との関係性の問題に対して「原因-結果」の因果論的帰結は難しく、家族の構造的特徴を掘り下げなければ問題解決に結び付かない。本講座は家族理解のための基本ツール「ジェノグラム」の標準化した描き方と構造的な理解のための視点を学ぶ。	佐藤 隆司(本学教授)	40人
11/24 (日)	【選択必修】	幼稚園を巡る近年の状況の変化について	選択必修領域として取り扱う事項のうち、「学校を巡る近年の状況の変化」について、幼稚園を中心として考える。その中で、このところクローズアップされている子どもの貧困問題についてその現状と課題を検討する。また、虐待等子どもに関わる社会問題から、改めて子どもの権利について考える。	金子 重紀(本学教授) 山野 良一(沖縄大学教授)	80人
12/1 (日)	【必修】	幼稚園教育の最新事情	今日の幼稚園教諭に求められる最新の教育事情について「国の教育政策や世界の教育の動向」、「教員としての子ども観・教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」、「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの領域から学ぶ。	伊藤 恵里子(本学准教授) 大村 あかね(本学講師)	80人